琉球大学学術リポジトリ

栗駒山麓ジオパークにおける地域福祉事業者の利用に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学人文社会学部 公開日: 2022-04-07 キーワード (Ja): ユニバーサル, ジオパーク, 観光, 福祉事業所 キーワード (En): 作成者: 波名城, 翔 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002017877

栗駒山麓ジオパークにおける地域福祉事業者の利用に関する研究

波名城　翔
Sho HANASHIRO

Research on the use of local welfare companies in the Mt.Kurikoma Area Geopark

本研究では , ユニバーサルの視点に立ったジオパークの構築について示唆を得るために地域の福祉事業所を対象に研究を行った。栗原山麓ジオパークサイト及び栗駒山麓のめぐみ認定店舗について栗原市内の介護サービス提供事業所及び障害福祉サービス事業所へ郵送にて調査を実施した結果 , ジオパークサイトの利用では「バリアフリー」,「アクセス」,「スペース」, 栗駒山麓のめぐみ認定店舗では「バリアフリー」,「利用への配慮」,「弁当での配達等」などが上位回答としてあげられた。以上の結果から、高齢者や障害者等が訪れやすいジオパークの構築として , ①高齢者や障害者層を意識した広報パンフレットの作成 , ②多様なニーズに対応する教材の作成と提供 , ③ジオパーク専門部会等への福祉事業所の参画について提案を行った。これらの取り組みには地域の福祉事業所をはじめ , 大学との連携や地域住民等が協働し進めていくことが望まれる。

キーワード : ユニバーサル　ジオパーク　観光　福祉事業所

Ⅰ　はじめに

わが国では ,2006 年に観光立国推進基本法 [1] が制定され , 第 21 条において ,「国は観光旅行者の利便の増進を図るため , 高齢者 , 障害者 , 外国人その他特

に配慮を要する観光旅行者が円滑に利用できる旅行関連施設及び公共施設の整備及びこれらの利便性の向上 , 情報通信技術を活用した観光に関する情報の提供等に必要な施策を講ずるものとする。」が明記された。翌年 2007 年には , 観光立国推進基本法に基づき , 観光立国推進基本計画 [2] が策定され「高齢者 , 障害者 , 外国人その他特に配慮を要する観光旅行者が円滑に利用できる旅行関連施設及び公共施設の整備及びこれらの利便性の向上」が明記され , 公共施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの考え方に基づく観光の促進などが示され ,2008 年には国土交通省 [3] から「観光のユニバーサル化手引き集」が発刊されるなどユニバーサルツーリズムに向けた取り組みが行われてきた。更に ,2012 年の観光立国基本計画第 2 期 [4] では , 公共施設のバリアフリー化として高齢者 , 障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の基本方針に基づく目標値が示され ,2017 年の観光立国基本計画第 3 期 [5] では ,「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたユニバーサルデザインの推進」として , ユニバーサルデザインの街づくりや「心のバリアフリー」を広めるための取組などの展開が示されている。

国の展開に併せて , 大手旅行会社では , バリアフリー旅行ツアーの企画やユニバーサルツーリズムに関する窓口などを設置 , また , 全国各地においてはバリアフリーに特化した旅行相談窓口が運営され観光庁の調査 [6] では 2021 年現在で 57 の旅行相談窓口が設置されている。

以上のようにユニバーサルツーリズムについては国をあげて推進されてきており , ユニバーサルツーリズムの推進や支援機関の役割を目的にした先行研究は報告されているが [7-9] , 観光地に存在する福祉事業所から見た観光地の利用についての報告を見られないことから , 本研究では栗原山麓ジオパークのある栗原市にある福祉事業所に調査を行うことで現状や課題を把握するとともにジオパークの利用の促進に向けていくつかの提案をしていく。

Ⅱ　ジオパークについて

ジオパークとは , 日本ジオパークネットワーク [10] によると ,「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉であり「大地の公園」を意味し , 地球（ジオ）を学び , 丸ごと楽しむことができる場所をいうとされており , 我が国には 2021 年 10 月現在で 44 の地域が日本ジオパークとして認定されている。ジオパークの活動としては観光活動に活かす , 地域を元気にする活動やそこに住む人とたちに地域の素晴らしさを知ってもらう活動をいい , 近年 , 日本ジオパークネットワークでは , 誰もが安心してジオパークを楽しむことができる環境づくりの創出を目的にジオパークユニバーサルデザインのワーキンググループが組織され活動が行われている。

Ⅲ　栗駒山麓ジオパークの概要

栗駒山麓ジオパーク [11] は宮城県栗原市に位置し ,2008 年（平成 20 年）に起きた岩手・宮城内陸地震で被災した , 栗駒山麓崩落地を背景に持つジオパークである。2013 年（平成 25 年）に市内外 36 の団体で構成する栗駒山麓ジオパーク推進協議会を設立し , 官民一体となったジオパーク推進事業が進めており , 人材の育成 , パンフレットやポスター , ガイドマップの作成など , ジオパークを理解してもらうための広報・宣伝活動 , ジオパークの魅力を体感してもらうジオツアーや小・中学校などへのジオパーク学習活動を展開している。栗原山麓ジオパークサイトマップでは , 宮城県栗原市を代表する栗駒山や栗駒温泉群 , 岩手・宮城内陸沖地震による発生した荒砥沢地すべり , 火山山麓地すべり地帯 , ラムサール条約に登録された伊豆沼・内沼など 47 のジオパークサイトがある（図 1）。また , 地質・地形的な特徴を活用した特産商品の認定制度として「栗駒山麓のめぐみ」を実施し ,「栗駒山麓のめぐみ認定商品パンフレット」には 2020 年 10 月時点で 14 の食事処 ,7 の店が認定されている。

図 1　栗駒山麓ジオパークサイトマップ　（栗駒山麓ジオパーク推進協議会提供）

図 2　栗駒山麓のめぐみ　（栗駒山麓ジオパーク推進協議会提供）

Ⅳ　研究の対象と方法

（１）　対象

栗原市内の福祉事業所のうちジオサイト及び栗駒山麓めぐみ認定店を利用する可能性のある，介護保険法に基づく，指定老人福祉施設，介護老人保健施設，認知症対応型共同生活介護（グループホーム），小規模多機能型居宅介護福祉事業所，通所介護，地域密着型通所介護を提供する介護サービス福祉事業所，障害者総合支援法に基づく，障害者支援施設，短期入所施設，共同生活援助（グループホーム），生活介護，就労移行支援，就労継続支援 A 型，就労継続支援 B 型，地域活動支援センター，児童発達支援，放課後等デイサービスを提供する障害福祉サービス事業とした。

対象施設の福祉事業所の選定については，介護サービス福祉事業所は，宮城県介護福祉事業所・生活関連情報検索サイト[12]，障害福祉サービス福祉事業所は栗原市で公表されている令和 2 年度栗原市社会資源ガイド（障害福祉しおり）[13]に登録されている福祉事業所とした。

（２）方法

介護サービス福祉事業所及び障害福祉サービス福祉事業所（以下，福祉事業所）を対象に栗駒山麓ジオパークについて郵送法にて調査票を配布回収した。調査項目は，①栗駒山麓ジオパークサイトの把握状況，②実際に利用したサイト，③栗駒ジオパークサイトの利用に関する意見，④「栗駒山麓のめぐみ認定商品」の把握状況，⑤「栗駒山麓のめぐみ認定商品」の利用状況，⑥「栗駒山麓のめぐみ」の利用に関する意見，⑦栗駒山麓ジオパークサイト，栗駒山麓のめぐみの認定商品の他福祉事業所への紹介状況，⑧高齢者や障害者等がジオパークの利用を促進するための意見，⑨自由記載とした。ジオパークサイトについては主要な 16 サイト，「栗駒山麓のめぐみ認定商品」については，パンフレットに記載のある認定店舗のうち「食事処」14 点を対象とした。参考資料としてパンフレット等を同封した。

調査票配布回収期間は 2020 年 11 月 11 日から 2020 年 12 月 14 日とした。

（３）倫理的配慮事項

倫理的配慮事項として施設の名前は公表されないこと , 提出は任意であることを記載した。

Ⅳ　結果

総郵送数 164 に対し回収数は 67 で回収率は 41% であった。

（１）　栗駒山麓ジオパークサイトの把握状況

図 1 に栗駒山麓ジオパークサイトの把握状況について示した。「内容等も含めて知っている」との回答が最も多く 35 福祉事業所 ,「名前だけ知っている」が 32 福祉事業所 ,「知らない」と回答した福祉事業所はなかった。

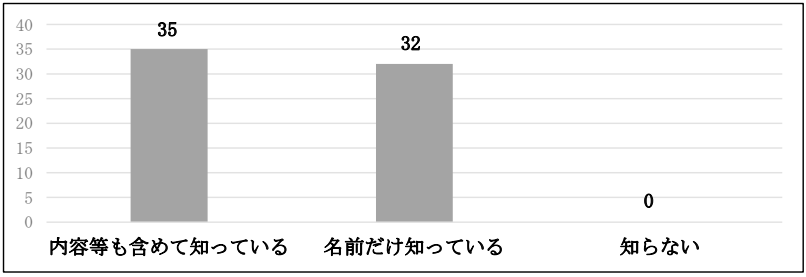

図 3　栗駒山麓ジオパークサイト把握状況

（２）福祉事業所の活動で実際に利用したジオパークサイト（複数回答有）

表 1 に福祉事業所の活動で実際に利用したジオパークサイトについて示した。総回答数は 238 であった。最もよく利用されていたジオパークサイトは ,「伊豆沼・内沼。伊豆沼サンクチェアリセンターなど」で 49 福祉事業所 , 次いで「細倉マインパーク」が 32 福祉事業所 ,「栗原の鉄道 , くりでんミュー

ジアム」が 30 福祉事業所 ,「栗駒山 , いわかがみ平 , 山頂など」が 26 福祉事業所と続いた。また , 最も利用が少ないジオパークサイトは「火山豆石 , 火砕竜流堆積物の小野田層」で利用した福祉事業所はなかった。次いで利用が少なかったのは ,「荒砥沢地すべり , 藍染湖ふれあい公園」 ,「迫三川平野部。長屋門 , 迫三川合流」で 3 福祉事業所であった。

表 1　福祉事業所の活動で実際に利用したジオパークサイト（複数回答有）

サイトの名称	回答数
伊豆沼・内沼。伊豆沼サンクチェアリセンターなど	49
細倉マインパーク	32
栗原の鉄道、くりでんミュージアム	30
栗駒山、いわかがみ平、山頂など	26
栗駒山麓ジオパークビジターセンター	22
花山村寒湯御番所跡	19
丘陵の渓谷。牛渕渓谷、浅布渓谷、川台渓谷	15
荒砥沢渓谷、荒砥沢ダム	13
栗駒温泉群	12
火山山麓地すべり地帯。冷沢崩落地、行者滝	6
高層湿原、世界谷地原生花園など	4
花山地区地滑り地帯。小川原崩落地、浅布崩落地、坂下崩落地	4
荒砥沢地すべり、藍染湖ふれあい公園	3
迫三川平野部。長屋門、迫三川合流	3
火山豆石、火砕竜流堆積物の小野田層	0

（３）　栗駒山麓ジオパークサイトの利用に関する意見（複数回答有）

栗駒山麓ジオパークサイトの利用に関する意見として 76 の回答があった。主要な項目と回答数 , 記述（一部抜粋）を表 2 に , 具体的な回答を資料 1 に示した。最も多い回答として「バリアフリー」で 23 の回答があった。具体的な内容として ,「車椅子を使用する方が多く , 車椅子に優しい環境だと外出しやすい」 ,「多目的トイレと休憩所が充実していると行事で利用しやす

い」,「腰掛けるところなどバリアフリーなどで歩行の不安定な児童に対しても安全な所 , 年齢に合わせて興味を惹くものがある。」などの回答があった。

次に回答数の多かった「アクセス」の具体的な内容として ,「体調やトイレなどを考えると長距離の移動は厳しい (伊豆沼は近いのでドライブで訪れることがある。)」,「基本的に片道 1 時間かからないところを選んでいる。」,「車で施設から 30 ～ 40 分程度の移動距離でカーブが少なく , 進路状況の良いところであれば高齢者の負担も少なくてよい」などの回答があった。また,「スペース」の具体的内容では「屋根がある休憩所 (東屋) がある」,「駐車場が整備されていること」、「施設利用者や付添職員向けのスペース」などがあげられた。「施設等における取り組み」では ,「風景のいいところなどは案内板があればよい」,「動画の配信があれば利用者に見て頂ける」,「買い物や食事等」では ,「水分 , おやつ程度の飲食ができる」,「安全性」では ,「利用者が興味・関心がもてることと安心安全な場であること」との回答があった。また,「その他」の意見として ,「場所の問題ではなく人員不足等で訪問が難しい」の人員不足の問題等があげられた。

表２　栗駒山麓ジオパークサイトの利用に関する意見（自由記述,複数回答有）

主な項目	回答数	記述（一部抜粋）
バリアフリー	23	・車椅子を使用する方が多く,車椅子に優しい環境だと外出しやすい ・多目的トイレと休憩所が充実していると行事で利用しやすい ・視覚障害者の方がわかりやすいように,手で触れて学べたり,手すりがあり段差が少ない場所,休憩できるところがあれば利用しやすい ・腰掛けるところなどバリアフリーなどで歩行の不安定な児童に対しても安全な所, 年齢に合わせて興味を惹くものがある。
アクセス	20	・体調やトイレなどを考えると長距離の移動は厳しい。（伊豆沼は近いのでドライブで訪れることがある。） ・基本的に片道1時間かからないところを選んでいる ・車で施設から30～40分程度の移動距離でカーブが少なく,進路状況の良いところであれば高齢者の負担も少なくてよい
スペース	10	・屋根がある休憩所（東屋）がある ・駐車場が整備されていること ・施設利用者や付添職員向けのスペース
施設等における取り組み	9	・風景のいいところなどは案内板があればよい ・動画の配信があれば利用者に見て頂ける ・体験活動などがあれば参加してみたい
利用料金	4	・施設利用者付添職員向けのフリーパス ・障害児対象の福祉事業所なので親の負担を軽減するため割引チケットや入場無料になると利用しやすい
買い物や食事等	4	・お土産・軽食の販売店はあるか ・水分,おやつ程度の飲食ができる
安全性	3	・利用者が興味・関心がもてることと安心安全な場であること
その他	3	・場所の問題ではなく人員不足等で訪問が難しい

（４）「栗駒山麓のめぐみ　認定商品」の把握状況

図４に「栗駒山麓のめぐみ　認定商品」把握状況について示した。「名前だけ知っている」と回答した福祉事業所が最も多く 32 福祉事業所,次いで,「『栗駒山麓のめぐみ　認定商品』は知らなかったがお店や商品名を知っている。」が 13 福祉事業所,「『栗駒山麓のめぐみ　認定商品』を知らないしお店や商品名を知らない」が 11 福祉事業所,「内容を含めて知っている」は 8 福祉事業所で最も少なかった。

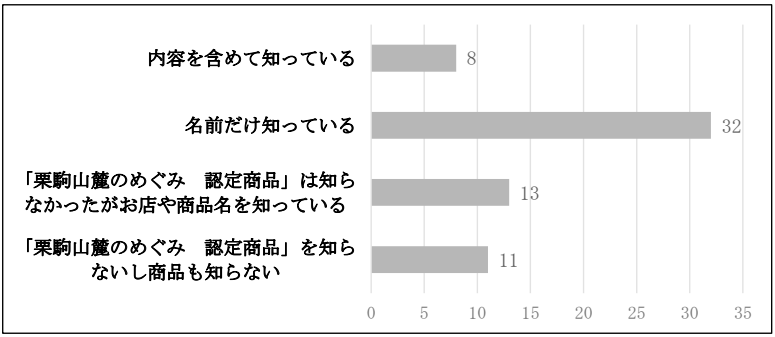

図 4 「栗駒山麓のめぐみ　認定商品」把握状況

（5）「栗駒山麓のめぐみ　認定商品」に認定店のうち福祉事業所の活動で実際に利用した場所（複数回答有）

「栗駒山麓のめぐみ」認定店舗のうち福祉事業所の活動で実際に利用した場所について図 5 に示した。認定店舗については調査票では実際の店名を記載し回答して頂いたが , 配慮という点から本研究ではアルファベット表記とした。最も多く利用されたのは「A」で 37 福祉事業所 , 次いで「B」で 35 福祉事業所 ,「C」で 31 福祉事業所と続いた。また , 利用が少ないのは ,「M」と「N」で利用したのはそれぞれ 1 福祉事業所 , 次いで「J」,「K」,「L」でそれぞれ 2 福祉事業所であった。

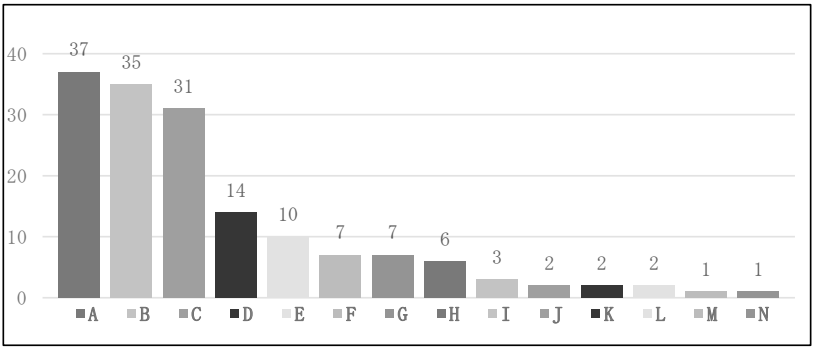

図 5 「栗駒山麓のめぐみ　認定商品」認定店のうち福祉事業所の活動で実際に利用した場所（複数回答有）

栗駒山麓のめぐみ認定店の利用に関する意見として 38 の回答があった。主要な項目と回答数，記述（一部抜粋）を表 3 に，具体的な回答を資料 2 に示した。最も多い回答として「バリアフリー」で 18 の回答があった。具体的な記述として，「バリアフリー仕様になっていること」，「建物内ではバリアフリー，食事をするとしたらお座敷ではなくテーブルで車椅子も利用できるところがいい」，「砂利道のところもあり移動するのが大変」などがあった。次いで「利用への配慮」では，「利用者の医療，受入れに配慮していたらければいいと思う。（例えば食材の刻み対応が可能であれば助かる《利用前に相談に対応してくれると安心》）」，「食事の場面での利用であれば食材の刻み対応が可能であれば大変助かる（利用前の相談に対応して頂けると安心）」，「弁当での配達等」では，「持ち帰りや配達など利用できるようになれば食べたいものばかりだが，高齢者（要介護者）には遠い」、「お弁当があり配達して頂けると利用しやすい」，「広報」では，「車椅子の方も利用できる」との記載などもあればいきやすい」，「アクセス」では，「アクセスが良好（道路の整備等）」との記述があった。なた，「その他」としては，「沢山のお店に参加して頂ければ，身近な近隣のお店を利用できる」や「一般客と混在すると迷惑と思い行動を

自粛してしまう」という記述があった。

表 3 「栗駒山麓のめぐみ」の利用に関する意見（自由記述 , 複数回答有）

主な項目	回答数	記述（一部抜粋）
バリアフリー	18	・バリアフリー仕様になっていること ・建物内ではバリアフリー,食事をするとしたら,お座敷ではなくテーブルで車椅子も利用できるところがいい ・砂利道のところもあり移動するのが大変
利用への配慮	5	・利用者の医療,受入れに配慮していたらければいいと思う。（例えば食材の刻み対応が可能であれば助かる《利用前に相談に対応してくれると安心》） ・食事の場面での利用であれば食材の刻み対応が可能であれば大変助かる（利用前の相談に対応して頂けると安心）
弁当での配達	4	・持ち帰りや配達など利用できるようになれば食べたいものばかりだが,高齢者（要介護者）には遠い ・お弁当があり配達して頂けると利用しやすい
広報	3	・「車椅子の方も利用できる」との記載などもあればいきやすい
アクセス	2	・アクセスが良好（道路の整備等）
その他	6	・沢山のお店に参加して頂ければ,身近な近隣のお店を利用できる ・一般客と混在すると迷惑と思い行動を自粛してしまう

（6） 栗駒ジオパークサイト ,「栗駒山麓のめぐみ」認定店の紹介等の有無について

図 6 に他の福祉事業所からの紹介の有無を示した。「紹介されたことがある」と回答した福祉事業所は 10 福祉事業所で「紹介されたことがない」は 56 福祉事業所であった。

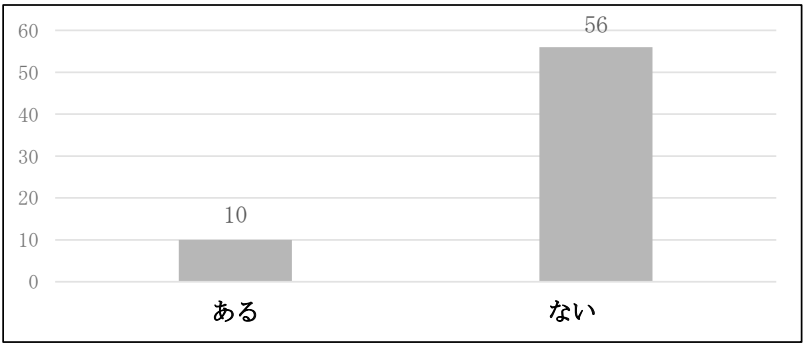

図 6　他の福祉事業所からの紹介の有無

図 7 に他の福祉事業所へ紹介したいかどうかについて示した。最も多い回答は「どちらともいえない」で 37 福祉事業所であった。次いで ,「紹介したいと思う」は 27 福祉事業所 ,「思わない」は 1 福祉事業所であった。

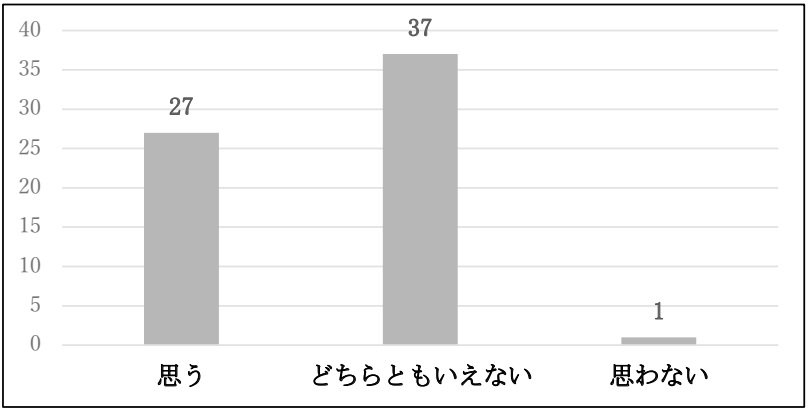

図 7　他の福祉事業所へ紹介したいかどうか

（7）　高齢者や障害者等がジオパークの利用を促進するための案（自由記述, 複数回答有）

高齢者や障害者等がジオパークの利用を促進するための案として 62 の記述があった。主要な項目と回答数 , 記述（一部抜粋）を表 4 に , 具体的な回答を資料 3 に示した。最も多い回答として「広報活動」で 18 の回答があった。「広報活動」の具体的な記述として ,「誰にでもわかりやすい PR や広報活動」,「字の大きいパンフレット等での説明」,「ジオパーク推進協議会の方が各福祉事業所を訪問し ,1 時間位で内容や素晴らしい所を伝える PR 活動がいいと思う」などがあった。次いで「バリアフリー」では ,「環境整備をして頂くと利用しやすい（トイレ , 駐車場 , 段差の解消等）」,「車から降りることができても , 駐車場が砂地 , 土だったりすると車椅子 , シルバーカーが動かなくなるので整備されていると安心して出かけることが出来る」などの記述があっ

た。また,「イベント等の開催」では,「高齢者や障害者等に合わせたコースの設定などから利用につなげる」,「身体の関係で行きたくても行けない場合があるので,映像などが良い」,「施設の環境整備等」では「ガイドが同行し説明する」,「散策しやすい環境があれば利用しやすい」,「利用料金」では,「障害者割引」,「コロナの影響もあるが無料体験ができる様な仕組みがあるといい」,「アクセス」では,「移動方法の確保」などの記述があげられた。また,「その他」として,「利用時の職員の人員確保」,「行った先に美味しい食べ物。説明や風景だけでは難しい。」などがあった。

表 4　高齢者や障害者等がジオパークの利用を促進するための案（自由記述,複数回答有）

主な項目	回答数	記述（一部抜粋）
広報活動	18	・誰にでもわかりやすいPRや広報活動 ・字の大きいパンフレット等での説明 ・ジオパーク推進協議会の方が各福祉事業所を訪問し,1時間位で内容や素晴らしい所を伝えるPR活動がいいと思う
バリアフリー	13	・環境整備をして頂くと利用しやすい（トイレ,駐車場,段差の解消等） ・車から降りることができても,駐車場が砂地,土だったりすると車椅子,シルバーカーが動かなくなるので整備されていると安心して出かけることが出来る
イベント等の開催	8	・高齢者や障害者等に合わせたコースの設定などから利用につなげる ・身体の関係で行きたくても行けない場合があるので,映像などが良い。
施設の環境整備等	8	・ガイドが同行し説明する ・散策しやすい環境があれば利用しやすい
利用料金	4	・障害者割引 ・コロナの影響もあるが無料体験ができる様な仕組みがあるといい
アクセス	4	・移動方法の確保 ・交通手段（楽にアプローチできるよう）
その他	7	・利用時の職員の人員確保 ・行った先に美味しい食べ物。説明や風景だけでは難しい。

（8）　自由記述（複数回答有）

自由記述として 17 の回答があった。具体的な回答を資料 4 に示した。「いくつかモデルコースがあって時間,距離,費用などの紹介があれば助かる」,「障がい児（者）や高齢者が気軽に土に触れられるような「市民農園」が

あればジオパークを活かすインプットになると考える」,「栗原市は自然がたくさんあるが,ただ自然があるというだけで身近に遊べるところがない,キャンプ場などアウトドア的な場所があるといい」といった提案などに対する意見や「名前は知っていてもなかなか利用には至らなかった。改めて栗駒山麓ジオパークの魅力に気づかされた。」,「今回栗原にはたくさんのお宝があることを学んだ」,「高齢者施設の入居者には利用が難しい所もあるが , 子供たちをはじめ色々な人に知って頂きたい」といった感想 ,「観光になっているイメージなので , 地元の人 , 地元の施設では , 特別利用しようとはあまり思わないかも知れない」といった意見 ,「距離の離れた施設では対応できない」,などの記述があった。

Ⅵ　考察

結果から栗駒山麓ジオパークが高齢者や障害者等の利用を促進するために必要な取り組みについて提案する。

（1）高齢者や障害者層を意識した広報パンフレットの作成

本研究の結果から , 福祉事業所ではジオパークサイトや食事処の利用について車椅子やシルバーカーの利用や多目的トイレの設置などバリアフリー整備の優先度が高いことが考えられた。図 1 で示した「栗駒山麓ジオパークサイトマップ～自然災害との共生と豊穣の大地の物語～」の拡大図を図 8 に示した。同サイトマップではジオサイトごとにトイレ , 駐車場 , 車椅子での見学について補足的にではあるが示されている。また、「栗駒山麓のめぐみ - 認定商品パンフレット -」では、栗駒山麓のめぐみの認定商品と店舗の紹介や地図など詳細に紹介されているが、バリアフリーの情報等について記載はされていない。実施調査においてはバリアフリーや駐車場などが整備されている店舗も見られる。以上のことから、サイト及び栗駒山麓のめぐみのパンフレット等において福祉事業所と作成側の視点に相違があることから、高齢者や障害者層を意識したパンフレットの作成が必要であると考えられる。図 9

に高齢者や障害者層を意識したパンフレットの案を示した。このように手すり , 車椅子用トイレ , スロープ , 大規模駐車場 , などの表記がされたマップがあれば福祉事業所の利用がしやすくなると考えられる。また「栗駒山麓のめぐみ」店舗については , 前述した表記と併せて ,「お粥」や「刻み食」など対応が可能な食についての表記があれば利用しやすくなると考えられる。

図 8　栗駒山麓ジオパークサイトマップ拡大図

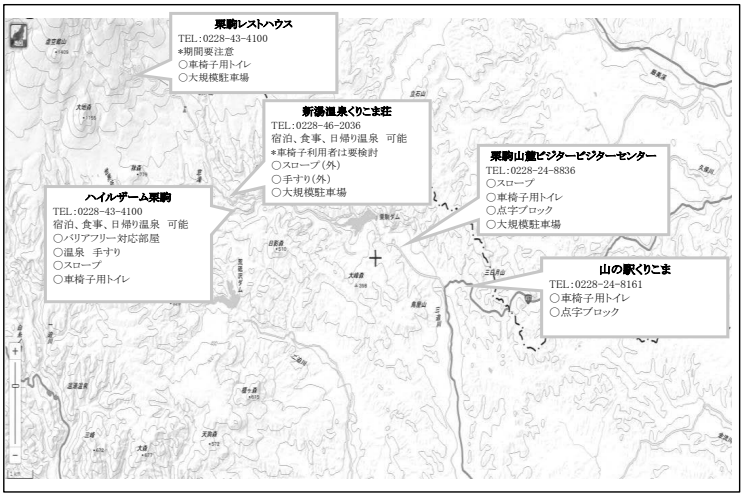

図 9　高齢者や障害者層を意識したパンフレット　（国土交通省　国土地理院 GSI Maps を基に作成）

（２）多様なニーズに対応するための教材の作成と提供

調査の結果から，高齢者、障害者等には多様なニーズがあることが示唆された。例えば，ジオサイトに訪れたいという意向はあるもののアクセスの問題やバリアフリーの整備の問題，職員の人員不足等の問題等で利用が限られていると考えられる。また，障害だけで考えても視覚障害や聴覚障害などニーズは多様である。これらの多様なニーズに対応するための教材の作成と提供が必要であると考えられる。

例えば，職員体制や利用者の介護が重いなどの理由で外出が困難な福祉事業所のためには，各サイトを写真や動画などで収録した教材を作成し，福祉事業所にてジオサイトの様子などを出前により公開することにより福祉事業所内で体験することが出来る。また、栗駒山の登山道や山頂、荒砥沢地すべり、世界谷地原生花園などは下肢筋力が低下している方には行くことが難しいため，VR などの教材を作成することで疑似体験をしてもらう方法や障害児・者用には、触って体験する（例えば土や砂など）イベントなどを開催することで利用がしやすくなると考えられる。また，視覚障害の方への対応として，「日本庭園ユニバーサル鑑賞を楽しむ会」[14] では，「触って理解できる地図」を使い鑑賞を支援するなどの取り組み，聴覚障害者の方へは手話によるガイドツアー[15] やコミュニケーションアプリである UD トークを利用した事例も見られる[16] ことから様々なニーズに合わせた教材や支援の提供が可能である。

次に，「栗駒山麓のめぐみ」店舗については，高齢者は普通食が食べられない方も多いため「お粥」や「刻み食」などニーズに対応できる取り組みがあれば利用しやすくなると思われる。また，バリアフリーや駐車場などが整備されている店舗もあるが，小規模な店舗では十分に整備されていない店舗も多いことから，弁当等の配達やキッチンカーという形ができれば，更に利用が促進されると考えられる。以上のように，多様なニーズに合わせて対応することで地域の福祉事業所にとってジオパークがより身近に感じることができ

ると考えられる。

（3）ジオパーク専門部会等への福祉事業所の参画

高齢者や障害者等の利用を推進する上では , 地域の福祉事業所がジオパーク専門部会等へ参画することが必要であると考えられる。調査結果からも分かるように , バリアフリー化やアクセス等 , 食事の配慮などの課題について実際にジオパークサイトや「栗駒山麓のめぐみ」店舗を利用している福祉事業所からの意見は現実的な課題を示していることから , 福祉事業所にジオパーク専門部会等へ参画してもらい , 福祉の視点から見たジオパークとして取り組みを推進することで高齢者や障害者等の利用しやすくなると考えられる。福祉事業所の参画により環境が整備されるだけではなく , 福祉事業所との横のつながりの中での利用促進も期待できる。更に , 福祉の視点から構築されたジオパークの取り組みは , 宿泊や移動等の要素を含める必要があるが , 市外からのユニバーサルツーリズムを目的で訪れる方にも機能すると考えられることからジオパーク専門部会等への福祉事業所等が参画することが望ましいと考えられる。

Ⅶ　終わりに

本研究では , 観光地に存在する福祉事業所から見た観光地の利用について調査を行い , 現状や課題を把握するとともにジオパークの利用の促進に向けて提案を行った。地域の福祉事業所は , 観光地の現状や課題を的確に把握していることから , 福祉事業所と連携することで地域の高齢者や障害者等にとって利用しやすい観光地となるのはもちろんのこと , 我が国が取り組んでいるユニバーサルツーリズムの推進に向けても寄与すると考えられる。国土交通省の調査研究 [17] によれば , 今後の人口減少に伴い国内宿泊旅行市場は縮小傾向にあるが ,70 歳以上のシニア層は 2048 年まで増加することから ,60 代と同じ回数旅行することで約 5,200 億円の市場となることを試算している。

また , 同報告では , 観光庁が試算した配慮が必要な高齢者及び要介護（要支援）認定者からの試算もされており , 現状では約 6,000 億円 , 最善のシナリオでは約 7,600 億円になると試算されており , 観光市場としてもユニバーサルツーリズムの重要性は今後更に高くなると考えられる。

多様化が進む中で全てのニーズに対応することは難しいことも多々あると思われるが ,VR やアウトリーチによる体験の場の提供 , コロナ禍で注目を浴びたデリバリー、なども取り入れることでこれまで行くことができなかった高齢者や障害者等が体験することができ , 地域住民に身近で「誰にでも優しいジオパーク」の実現に近づくと考えられる。今後 , これらの取り組みには多大な時間と労力、専門技術等が必要となるため , 地域の福祉事業所をはじめ , 大学との連携や地域住民等が協働し取り組みを進めていくことが望まれる。

【謝辞】

本研究に多大なご協力を頂きました栗駒山麓ジオパーク推進協議会の皆様 , 調査にご協力頂きました福祉事業所の皆様に心より御礼申し上げます。

【附記】

本研究は令和 2 年度栗駒山麗ジオパーク学術研究助成を受け実施した「ユニバーサルの視点に立った高齢者や障害者等が訪れやすいジオパークに関する調査研究」の一部を編集した。

＜引用文献・参考資料＞

1) 観光立国推進基本法 .2006.

2) 国土交通省 , 観光立国推進基本計画 .2007.

3) 国土交通省総合政策局 . 観光のユニバーサル化 手引き集～だれもが旅行を楽しめる環境づくりのために～ .2008.

4) 観光庁 , 観光立国推進基本計画 .2012.

5) 観光庁 , 観光立国推進基本計画 .2017.

6) 観光庁観光産業課 .「バリアフリー旅行サポート体制の強化に係る実証事業」報告書 .2021.

7) 母倉 修 , 糟谷 佐紀 , 鞍本 長利 . 着地型の高齢者・障がい者を対象とする旅行サポート事業構築 : ユニバーサルツーリズムの現状と克服すべき課題と今後の可能性 . 日本観光研究学会全国大会学術論文集 = Proceedings of JITR annual conference 26.9-12.2011.

8) 秋山 哲男 , 大西 康弘 , 佐藤 貴行 . 観光困難階層にとってのユニバーサルツーリズム観光科学研究 (6) .111-125.2013.

9) 平井 木綿子 , 大西 一嘉 . ユニバーサルツーリズムにおける地域の支援組織の役割に関する研究 : 全国 18 団体の担当者へのインタビュー調査を通じて . 神戸大学大学院工学研究科・システム情報学研究科紀要 (8) .35-43.2016.

10) 日本ジオパークネットワーク .https://geopark.jp/.

11) 栗原市役所 商工観光部 ジオパーク推進室 .
https://www.kuriharacity.jp/geopark/index.html.

12) 宮城県介護福祉事業所・生活関連情報検索サイト .
https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/04/index.php.

13) 栗原市市民生活部社会福祉課障害福祉係 . 栗原市社会資源ガイド (障害福祉しおり) .2020.

14) 全国社会福祉協議会 . 視覚障害のある人と一緒に日本庭園を楽しむ : 京都府 ボランティアグループ 日本庭園のユニバーサル鑑賞を楽しむ会 (人と人をつなぐ実践) 月刊福祉 99 (7) . 74-77.2016.

15) 竹田 彩夏 , 川原 晋 , 野田 満 . ユニバーサルツーリズムの推進に向けた手話による観光ガイドツアーの実態に関する基礎的研究 : 伊勢神宮内宮をケーススタディとした口話による観光ガイドツアーとの構造比較を通して都市計画論文集 55 (3) .729-736.2020.

16) 青木 秀仁 . ユニバーサルツーリズム UD トークと手話通訳で行くカンボジア旅行 New media 36（11）.8-10.2018.
17) 国土交通省国土交通政策研究所 . 車いす、足腰が不安なシニア層の国内宿泊旅行拡大に関する研究 . 国土交通政策研究 130.2016.

＜資料１＞

栗駒山山麓ジオパークサイトに関する意見

＜バリアフリー＞

・車椅子でも見学可能な場所であること

・ビジターセンターは車椅子用トイレやスロープなどの設置があり , 利用しやすいが他の場所は設備がないため利用をためらう

・障がい者用トイレやおむつ台などの設備の充実があるととても利用しやすい

・車椅子用トイレが外にある

・トイレが洋式

・車椅子を使用する方が多く , 車椅子に優しい環境だと外出しやすい。

・休憩スペース , 駐車場が確保され , 車椅子対応のトイレがあるといい

・トイレ等のバリアフリー（もう少し広く）

・車椅子や障害者トイレを使いやすい所 , 現在はほとんどの場所で設置されている

・障害者用の駐車場があるところで建物内はバリアフリーがあると良い

・車椅子も入れる広いトイレがあるといい

・障がい者のトイレや着替えする場所の設置

・車椅子のまま利用できるトイレが少なかったり , 介助できるスペースがなかったりと車を降りてまで利用は出来ないと思われる。休憩スペースもなく(広さも) 利用は難しい

・バリアフリーのトイレがあり平らな所

・車椅子対応のトイレ

・車椅子利用者でも使用しやすい設備 (トイレ等の設備)

・障害者や高齢者等 , 色んな方々が利用しやすいようにバリアフリーの設備やトイレ等 , 車椅子でも使用できるよう人スペースの確保 , 手すり等設置されているのでいい

・バリアフリー化または舗装化

・多目的トイレと休憩所が充実していると行事で利用しやすい

・トイレが複数あり洋式・手すり , スロープ広め

・杖歩行 , シルバーカー , 車椅子の利用者の移動がちょっとした段差で車椅子のタイヤ

が動かなくなる。バリアフリー , スロープ , 車椅子用のトイレの整備が必要

・車椅子でも利用しやすく , 雨でも楽しめるところがあれば利用しやすい

・視覚障害者の方がわかりやすいように , 手で触れて学べたり , 手すりがあり段差が少ない場所 , 休憩できるところがあれば利用しやすい

・高齢者が使用しやすい物の設置

・腰掛けるところなどバリアフリーなどで歩行の不安定な児童に対しても安全な所 , 年齢に合わせて興味を惹くものがある。

・トイレの充実（車椅子も使用できるか）, 車椅子でも利用可能

・デイサービスのあるところからジオパークまでは移動距離が長いので , 途中に何か所か清潔で車椅子の方でも利用できるトイレなどがあると安心

・入所者との利用となると車椅子トイレ , 舗道や手すり等整備されているところ ,

・車から降りることができても ,駐車場が砂地 ,土だったりすると車椅子 ,シルバーカーが動かなくなるので整備されていると安心して出かけることが出来る

・移動中のトイレ , 休憩場所が少なく , 行動に踏み込めない

・障害者施設のため , 耳で見て楽しめる物が各所にあればいいと思う

＜アクセス＞

・車で施設から 30 ～ 40 分程度の移動距離でカーブが少なく , 進路状況の良いところであれば高齢者の負担も少なくてよい

・シャトルバスなどの利用があればよい（施設通所者は 30 ～ 35 名＋スタッフ）

・公共交通機関

・移動距離の関係で近場のみ対応

・車での行きやすさ

・車酔いする方がおり山道は苦手

・山のようなところが多く , 高齢者の移動では困難である

・高齢者たちなので見学するのも季節や平地であることが一番。長時間の移動も難しいため上記のところしかいけない。自然の恐ろしさや美しさ等知るために大変素晴らしい活動と思う

・体調やトイレなどを考えると長距離の移動は厳しい。

・老人福祉施設を利用される方は , 移動距離があったり , 途中でトイレ等の問題がある

・車移動でもそう遠くなく往復できる

・福祉事業所から片道 30 分程度（車酔いする利用者もいるため）

・アクセスが良好（道路の整備等）

・基本的に片道 1 時間かからないところを選んでいる

・足が不自由な方（車椅子の方）が多いので , ドライブでしか訪れない

・福祉事業所より 30 分圏内

・片道 40 分以上となれば道中でトイレを休憩できる場所はあるか。

・移動時間が長く疲労してしまう

・利用者と共に行くのは遠すぎる

・どこの地域でも気軽に行ける場 , 地域の偏りがあるように感じる

＜スペース＞

・気軽に休憩できる屋内外のスペース（ベンチ , テーブル）

・屋根がある休憩所（東屋）がある

・駐車場が整備されていること

・施設利用者や付添職員向けのスペース

・テーブルなど小休憩（お茶を飲む , おやつなど）できるスペースがある

・駐車スペースが近くにある。施設前に停車し雨あたらず動線アプローチが良い所

・休憩スペースがある

・食事やトイレ休憩できるところが良い

・トイレの有無

・屋根がある休憩所（東屋）がある

＜施設等における取り組み＞

・内容などまだ知らないことが多いのでパンフレットを頂けると利用しやすい

・風景のいいところなどは案内板があればよい

・動画の配信があれば利用者に見て頂ける

・ガイドの説明があるとわかりやすい

・遊べる遊具や空間

・体験活動などがあれば参加してみたい

・見て学ぶことができて楽しめる

・施設が充実すれば機会も増える。スタッフ含めて 25 名前後の団体移動するため

・未就学児も体験できるイベント

＜利用料金＞

・施設利用者付添職員向けのフリーパス

・障害者割引

・障害児対象の福祉事業所なので親の負担を軽減するため割引チケットや入場無料になると利用しやすい

・期間限定（夏休みや祝祭日）の割引チケット

＜買い物や食事等＞

・特産物を販売する

・普段 , 買い物や外食する機会が少ない方が多いので買い物や食事ができるところがあれば一緒に楽しめる

・お土産・軽食の販売店はあるか

・水分 , おやつ程度の飲食ができる

＜安全性＞

・案内板

・安全であること

・利用者が興味・関心がもてることと安心安全な場であること

＜その他＞

・場所の問題ではなく人員不足等で訪問が難しい

・地元の各個所にある昔からの場所にあるので , この場所でいいと思う

・高齢になると行きたいと思ってもなかなか行くことができないため , 四季折々の風景を楽しめることができてよいと思う

＜資料２＞

「栗駒山麓のめぐみ」認定店に関する意見

＜バリアフリー＞

・車椅子でもスムーズに店内に入れる

・バリアフリー仕様になっていること

・お店にパンフレットにバリアフリーの記載があればいいと思う。

・車椅子用トイレが外にある

・トイレが洋式

・駐車場 , トイレ , 車椅子対応か否か

・密にならず , 車椅子が入れるバリアフリーで多目的トイレの設備がある

・個室が利用でき , 車椅子用トイレが備わっている

・車椅子対応のトイレ , ベンチ

・車椅子でも使用できる場所

・車椅子など使いやすいと良い

・安心して出かけられるバリアフリー化 , 杖歩行の方とも少し歩き疲れて休む（椅子）が所々にあると利用しやすいと思う

・車椅子などが入れる所もあればと思う。場所によってはきちんと整備されているところもあるが , 難しいところもあると思う

・車椅子の方が数名いてもゆったり過ごせる環境であれば利用しやすい

・建物内ではバリアフリー , 食事をするとしたら , お座敷ではなくテーブルで車椅子も利用できるところがいい

・車椅子利用者でも使用しやすい設備（トイレ等の設備）

・障害者用のトイレが完備されていれば使いやすい

・砂利道のところもあり移動するのが大変

＜利用への配慮＞

・利用者の医療 , 受入れに配慮していたらければいいと思う。（例えば食材の刻み対応が可能であれば助かる《利用前に相談に対応してくれると安心》）

・食事の形態などにご協力頂けると利用しやすい

・食事形態の多様化で利用者が利用することは難しい

・食事の場面での利用であれば食材の刻み対応が可能であれば大変助かる（利用前の相談に対応して頂けると安心）

・障害者の利用，受入れに配慮して頂ければ良いと思う

＜弁当での配達等＞

・事務所に販売に来てほしい

・注文を取りに来てほしい

・持ち帰りや配達など利用できるようになれば食べたいものばかりだが，高齢者（要介護者）には遠い

・お弁当があり配達して頂けると利用しやすい

＜広報＞

・地元の人でも知らない点が問題。訪れた場所でしかパンフレットを目にしない利用しない部分かと思う

・「車椅子の方も利用できる」との記載などもあればいきやすい

・道の駅，新幹線の駅など訪れやすい所に商品をまとめて「コーナー」を作るととっつきやすい。また，そのコーナーを市内に数か所欲しい。イオンなどもいい

＜アクセス＞

・交通の便がいいところ

・アクセスが良好（道路の整備等）

＜その他＞

・予約ができる

・手ごろな価格と座って食べられる場所がある

・沢山のお店に参加して頂ければ，身近な近隣のお店を利用できる

・一般客と混在すると迷惑と思い行動を自粛してしまう

・広い空間があると利用しやすい

・立地がどうこうというよりも日頃からあまり地元の人も利用しないところが多

＜資料３＞

高齢者や障害者等がジオパークの利用を促進するための案

＜広報活動＞

・各福祉事業所への広報活動が必要

・施設スタッフが内容を理解していないと「利用者を連れて行こうと」ということにならないので , パンフレットやスタッフへ事業内容の説明などあれば利用しやすい

・老人施設 , 障害者施設においてパンフレットを置いたりスクリーン等を使って見せにくる

・施設及び各場所でのピクトグラムの採用。ジオパークオリジナルのピクトグラムの作成。パンフレット等のピクトグラムの採用

・誰にでもわかりやすい PR や広報活動

・ジオパークの PR を重点的に行う

・地域の特徴を生かしたものであるので , 外出の多いデイサービスなどへ積極的にアプローチすることもいいと思う

・地元に居てもわかりづらいので CM 等するのもいいと思う。

・市の広報

・各施設への情報の提供

・DVD やチラシで周知する

・パンフレットを配布する

・活動内容や取り組みの広告など

・パンフレット配布（新聞折込 , 広報くりはら , 施設に配布）, テレビ ,CM

・地域や施設等への呼びかけやチラシ , 広告等の配布

・各福祉事業所への広報活動が必要と思われる

・字の大きいパンフレット等の説明

・パンフレット等での周知 , 直接宣伝する形での紹介

・ジオパーク推進協議会の方が各福祉事業所を訪問し ,1 時間位で内容や素晴らしい所を伝える PR 活動がいいと思う

＜バリアフリー＞

・バリアフリー

・施設内のバリアフリー化

・環境整備をして頂くと利用しやすい（トイレ，駐車場，段差の解消等）

・見学場所が車いすでも安心していけるような場所

・車椅子の設置

・バリアフリー，駐車場などの問題

・ドライブなどで一巡して車窓から見物してみたいときに，トイレ休憩場所（男女別で介護者も同時に入れるスペースのあるバリアフリーな水洗トイレ）が少なく限られたルートや見物場所となってしまう

・高齢者の方でも安心して利用できる設備が整っている等

・トイレはバリアフリーで綺麗で使いやすいと利用しやすい

・車から降りることができても，駐車場が砂地，土だったりすると車椅子，シルバーカーが動かなくなるので整備されていると安心して出かけることが出来る

＜イベント等の開催＞

・身体の関係で行きたくても行けない場合があるので，映像などが良い

・定期的なイベントの開催

・季節に応じた見どころの紹介

・高齢者や障害者が参加しやすいイベントを開催する等

・イベントの配信（郷土芸能等）

・高齢者や障害者等に合わせたコースの設定などから利用につなげる

・動画の配信があれば利用者に見て頂ける。

・見て楽しめるものがある

＜施設の環境整備等＞

・屋内施設

・トイレやベンチが有ると良い

・安全対策

・トイレ , 休憩所の整備

・散策しやすい環境があれば利用しやすい

・介助する人がいること (施設内にも)

・ガイドが同行し説明する

・高齢者向けの食べ物・飲み物

＜利用料金＞

・障害者割引

・コロナの影響もあるが無料体験ができる様な仕組みがあるといい

・地元に人に得できるプラン , 割引あれば行くかも知れない。

・割引サービス

＜アクセス＞

・公共交通機関

・交通手段への取り組みが必要

・移動方法の確保

・交通手段 (楽にアプローチできるよう)

＜その他＞

・あまりにも身近すぎて改めていこうと思いづらい

・施設は出かけたいが職員の人数の問題やコロナの問題があり , 活用できない状態であり残念

・なぜ知ってもらい利用するかが不明なところから取り組みが必要ではないか

・利用時の職員の人員確保

・行った先に美味しい食べ物。説明や風景だけでは難しい

・訪問したことがないのでわからない

・スタッフが施設を知っていること

＜資料４＞

自由記述

・身近にあるジオパークの魅力 , 素晴らしさを地域でも知ってもらう必要があると思った
・いくつかモデルコースがあって時間 , 距離 , 費用などの紹介があれば助かる
・障がい児（者）や高齢者が気軽に土に触れられるような「市民農園」があればジオパークを活かすインプットになると考える。（大地（土）に触れる⇒ジオ（地球を感じる）⇒地域を知る⇒作物を栽培する⇒消費（食べる）⇒全体の繋がりを感じる）
・栗原市は自然がたくさんあるが , ただ自然があるというだけで身近に遊べるところがない , キャンプ場などアウトドア的な場所があるといい
・今後も四季折々の栗駒山麓ジオパークを利用し子供たちにも楽しんでもらえるようにしていきたい
・ジオパークを拝見してシアターが感動的だった。大パネルに大音量 , 大自然の映像が流れ , 自分がその中に入ったような気分になり , 利用者も喜んでいた
・今回栗原にはたくさんのお宝があることを学んだ
・認知症のため内陸地震の記憶がなく , 昔の子とのみ覚えている方も多く , 今 , 現状をわからない方もいる
・安全で安心して過ごせる場所作り
・観光になっているイメージなので , 地元の人 , 地元の施設では , 特別利用しようとはあまり思わないかも知れない
・パンフレットを頂き参考になった
・ビジターセンターは個人的に行ったことがあり楽しかった
・名前は知っていてもなかなか利用には至らなかった。改めて栗駒山麓ジオパークの魅力に気づかされた
・高齢者施設の入居者には利用が難しい所もあるが , 子供たちとはじめ色々な人に知って頂きたい
・距離の離れた施設では対応できない
・バリアフリーな環境の整備